

シリーズ —— ②
わが町再発見

村の獅子舞い

四月下旬から五月上旬にかけては、各地の村まつりシーズン。杉山神明神社の祭礼では、置賜地方の流れをくむめずらしい獅子舞いが、若者たちによって毎年披露されます。
(撮影地／杉山)



広報

あさひまち

ASAHI-MACHI

5

1993
MAY.

月号
NO.438

今、都市から農村に風が吹く

田舎暮らし求め転入する都市生活者

町から転出する人は依然として多く、人口は減り続けています。それによらない、空き屋や農地の荒廃が見られるようになりました。

しかし昨年あたりから、都会で暮らす人たちから「町でりんごつくりしたい」、「町が気に入ったので住みたい」などの問い合わせが、町に寄せられるようになりました。少しずつですが、そういう人たちが町に住み始めました。

都会の人たちが

町に目を向けている

館山政巳さん三十四歳。北海道出身で東京都世田谷区在住、営業マンとして食品関係の会社に勤務。奥さんと子供二人（一歳と五ヶ月）の四人家族です。その館山さん一家が今月の十日、朝日町でのりんごつくりにあこがれて転入してきました。館山さんが町に興味を持ち始めたのは、全国的に発売された「今、田舎暮らしがおもしろい」という雑誌に朝日町が紹介されたのがきっかけでした。

その内容は、町民みんなで取り組んでいる町づくりの様子や、十五年ほど前に、同じように一家で転入して来た奈良崎美雄さん（大滝）のりんごつくりにかける情熱。さらには、町の豊かな自然や朝日自然観などが、九ページにわたり特集で紹介されていました。

最近この雑誌の影響か、都会で暮らす人たちから「町でりんごつくりをしたいがどうすればよいか」、「町に移住したいので

松原と曲渕に転入した

2家族

わが町にもそういう人たちが何組か転入して来ています。また、その数も少しずつ増える傾向にあるようです。その一人宮川政美さん一家。東京で鉄鋼関連の会社で働いていましたが、いつかは田舎で生活したいと考えていました。山登りが好きな漠然とこんな町で暮らしたいと思いつつ、役場に立ち寄ったのがきっかけで、その日のうちに働き口から住むところまで紹介してもらいました。それが転入が決まりました。それから一年間は松原の空き家を借り、町の工務店で大工として働きました。そして、町で暮らしてもらっている「いま、山村がおもしろい。Uターン者歓迎」という看板が目に止りました。

奥さんの恵子さんは、「何とい



長年の夢がかなったと語る館山さん一家（借地のりんご園で）

さっそく花摘みをする政巳さん

つても、春夏秋冬のみごとな四季の移り変わりがすばらしいですね。それに、水や野菜のおいしいことにはびっくりしました。東京では到底味わうことのできないものばかりです」と自然の移り変わりに驚いた様子です。さらに、家族で話をするゆとりが出てきて絆が深まったことや、子供たちが自然の中で伸び伸びと生活できることのすばらしさを語ってくれました。

もう一組は萩野裕二さん一家。平成四年十月に曲渕の空き家を購入し、奥さんと子供二人（十歳と三歳）の四人が引っ越ししてきました。ご主人は、ジャズやポップスの編曲を仕事にしている編曲家。職業柄おもに東京で仕事をしていますが、奥さんの睦美さんと三人（こちらに来てから一人誕生）の子供達は曲渕で元気に生活しています。

萩野さんと朝日町の縁は、田舎暮らしを希望する都会の人を舍てています。どちらの区民のみ

村をあげての歓迎は 朝日町の町民性

さらに、萩野睦美さんも宮川恵子さんも異口同音に朝日町の人には、心のあたたかさや優しさという田舎特有のよさがある

対象として、土地や住宅を専門に斡旋している不動産会社の紹介によるものでした。現在は古い家屋を取り壊し、新築して住んでいます。

曲渕地区に住もうとした動機について、奥さんの睦美さんは「以前から田舎暮らしをしたいと考えていて、長野や山梨などと見て回っていました。でもむこうは、あまりにもリゾート化されて都会の生活と変わらなくなってしまいました。本当の田舎ではないという感じでしたね。それがここに初めて来たとき、わたしたちが住む場所はここだとピーンときました」と無条件で曲渕が気に入ったと語ってくれました。

そこに住み続けている人たちには見慣れた風景や自然が、都會暮らしを経験した人たちには、心が洗われるような新鮮さを覚え、かけがえのないものに見えます。

なさんも両家族に対し、季節の野菜や果物を届けたり、とてもめんどうを見てくれるとも話してくれました。

都会の人人が一つの村社会に入



町から他市町へ転出して行く傾向は以前として続き、過疎化防止策の効果はなかなか上がらないのが現在の町の実情です。

特に農業の後継者不足や就農者の高齢化は深刻な問題で、それに伴い遊休地や荒廃農地が年々増加傾向にあります。りんご園を貸したいという申し込もうについても例外ではありません。現在、山形朝日農協にはりんご園を貸したいという申し込みが約三ヘクタールほどあります。この状況下に館山さんのような新規就農者が町に来ることに

館山さんのような新規就農者に

朝日町で暮らしたい人に もっと目を向けて

この新規就農者の受け入れに

ついて奈良崎さんは、「町のりん

ご農家が次第に減少する中で、

本気で農業をしたいと考えてい

る人は積極的に受け入れるべきだと思います。一人でも多くの仲間を増やして農業をやりたいですかね。今回の館山さん

の点について、曲渕の長岡正昭区長さんは「確かに、初めはどんな人がくるのか心配でした。でも萩野さんは、気さくでさつぱりした性格のせいか、すぐに村に溶け込んだようです。特に子供がいるので早くからなじめたのではないでしょう。村を挙げての歓迎会をしたり、とにかく村では萩野さん一家が来てくれてみんな喜んでいるところ

です」と萩野さんを迎えた喜びを話してくれました。

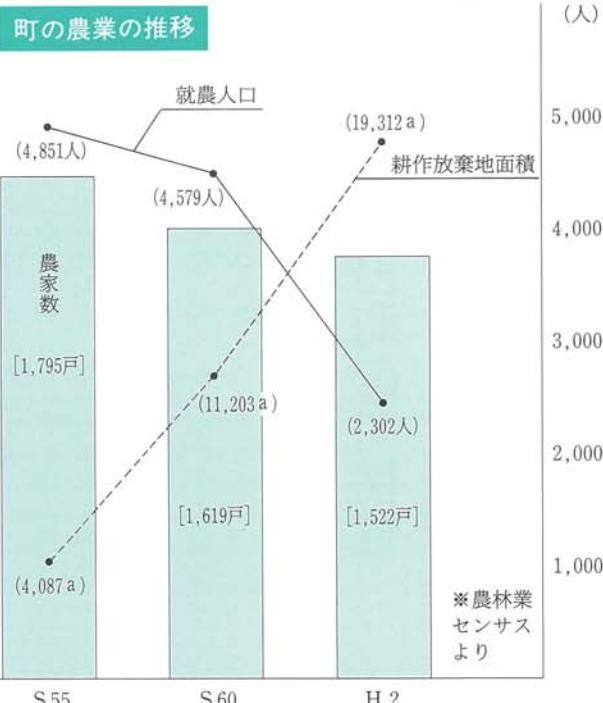
脱サラをして大滝に移住し、りんごつくりをはじめた奈良崎美雄さんは、町民性について「朝日町の人達は、町外の人が転入しても特別な目で見たり、仲間にしたりは決してしません。それどころか、地区民あるいは町民全体が、めんどうを見てやろうとする人情厚い土地柄です」と当時振り返って語ってくれました。

転入希望者には できる限りの支援

ついで、山形朝日農協農業振興対策室の後藤治三郎室長は、「全

く町に縁故のない方でも本気で農業をしたいという人なら、農協としてはできるだけの支援をしたいと考えています。具体的には當農指導や制度資金の融資などが考えられます。しかし、

一番問題なのは現在の厳しい農業情勢のもとで本気でりんご園一ヘクタールがちょうど貸しに出していたこと。また、スプレヤーなどの機械もすぐに使用できる状態であったことなど、タイミングよくそろえられていたため、すぐに受け入れることができたともいえます。





(上)りんご園から朝日連峰をのぞむ。(左下)近所の子どもたちにピアノを教えたり、曲測にすっかり溶け込んだ萩野さん一家。(右下)変化に富んだ町の四季がすばらしいと話す宮川さん一家。

ケースを一つのモデルとして農協、農業委員会、町（行政）が一体となって受け入れ態勢を整備してほしいと思います」と町が一体となつた受け入れ態勢の整備を訴えています。

さらに、具体的には「現在わたしが考えているのは、りんごづくり希望者に一年間ぐらいりんご農家に住み込みで働いてもらう。いわば一年間の体験農業です。そこで、ある程度のやれる自信がついたら農地や住宅を世話してやるという方法です。

新しい風を町に吹きこみ

新たに発見に

宮川政己さんは、「この松原地内に自分の家を自分の手で建築したい」と語り、曲測の萩野裕二さんも「地区の子供達にピアノを教えようとっています。将来は、自宅の近くに仕事場を作り一家全員で生活したい」と話してくれました。館山さんは今月十日宮宿の借家に引っ越し、上郷にあるりんご園でりんごつくりに挑戦を始めました。そのほかにも、自然を撮らせたら国内屈指といわれる写真家が立木地区に間もなく引っ越して来ます。

田舎暮らしを求める都市生活

これだと比較的失敗も少ないのではないか」と受け入れにあたつての提案をしてくれました。また、「農家をやめる人や町を出て行く人達ばかりに目を向けて何も生まれてはれない。朝日町の自然が好きで暮らしたいという人、りんごつくりをしたいという人、この町でぜひ子育てをしたいという人達を受け入れて、ともに幸せに暮らすことにもつと目を向けてほしい」とも語ってくれました。

者の移動が少しづつ始まつたようです。今、役場に問い合わせのある人たちの中で、これから先、何組が移り住み定住するかは未知数です。また、そういう方の働き場所や強い共同体の絆の中でもうまく暮らせるのかなど、課題もあるでしょう。しかし、都会から田舎に吹き始めた風を利用し、転入者を迎えることは、これまで気付かなかつた町の良さや町民性を見直すきっかけになるのは確かです。そして、ともに朝日町で暮らす喜びを感じられるのではないでしょうか

町政

スポット

り決まりました。



議長
佐竹 薫
(72歳・松程)

昭和38年初当選以来現在
8期目。文教厚生常任委員長、副議長を歴任し、
この度で4度目の議長。



副議長
白田太郎
(65歳・大谷六)

昭和50年初当選以来現在
5期目。総務建設常任委員長、議会運営協議会副委員長を歴任。

議長に佐竹 薫氏

副議長に白田太郎氏

町議会の構成きまる

常任委員会などの新しい議会の構成を決める、臨時議会が四月二十六日開かれました。席上、佐竹議長より辞職願いが提出されたのに伴い、議長選挙が行われ、指名推薦により佐竹薰氏が全会一致で再選されました。また、副議長についても、指名推薦による全会一致で白田太郎氏が初当選しました。

また、常任委員会や議会運営協議会などの構成は、次のとおり決まりました。

監査委員	農業委員	議会運営協議会	産業経済常任委員会	文教厚生常任委員会	総務建設常任委員会
委員	委員	委員長	委員長	委員長	委員長
鈴遠長	渡川岡堀長	佐鈴遠清	浅長渡	川口	阿長岡
木藤岡	辺口崎岡	竹木藤野岡	辺岡	近衛岡	阿田木
秀健	治幸源重周	健秀力清	健治	正恒	白木
功利一	次雄吉雄真	薰慥利二	二一雄	功雄夫	太田惣
				快	賢好源
					二一郎真一一吉

大助	栄	西	本	■平成五年度新区長()は世帯数
ノ	町	町	町	
町	町	町	町	
鈴木	布施	安藤	渡辺	今野
清次郎	正	芳雄	久喜	優
(84)	(56)	(76)	(118)	(93)
				新

よろしくお願ひします

△新區長△

松杉水	下芦	送古	大平	沼宿	小原	四ノ沢	新前田	西元
原山本	沢	橋	楨隅	向	原宿	宿	原沢	原町
松尾	斎藤	岡崎	大滝	渡辺	佐藤	佐藤	近藤	阿部
信朋	惣一	太郎	権吉	渡辺	鈴木	佐藤	熊谷	阿部
登	良春	吉藏	吉良	佐藤	佐藤	佐藤	與志雄	鶴雄
						小喜	幸雄	博
						治	鶴雄	

40 35 27 40 39 29 38 19 42 44 53 63 54 76 32 69
再 (新)

長い間ご苦労様でした

△退職区長△

▼自治功勞表彰

安藤八郎氏(10年・西町)
大谷啓氏(6年・大谷二)
菅井覚氏(6年・大谷三)

▼感謝状贈呈

浅岡安吉氏(5年・宇津野)
阿部正二氏(4年・立木)

白田朝雄氏(4年・大谷四)
長岡石五郎氏(4年・大谷五)
岡崎孝雄氏(3年・下芦沢)
渡辺栄氏(2年・古檍)
小野重兵衛氏(2年・真中)

平成5年度

町民と町政のパイプ役 新區長さん紹介



町民と共に進める町づくり
(昨年の町政座談会)

**あなたは塩分計を
利用していますか**

～塩分測定器アンケート調査から～

塩分計を全戸配布して1年が過ぎました。そこで食改推進員、婦人会の協力をえて、塩分計の使用状況や塩分に対する意識変化のアンケート調査を行いました。

使用状況をみると55.6%の人が現在使用しており、塩分に気を使うようになったといっています。使っている人の83.9%、また、現在使用していない人でも49.6%が塩分に気を使うようになり、全体でみると約7割が塩分に注意するようになったという結果がでした。

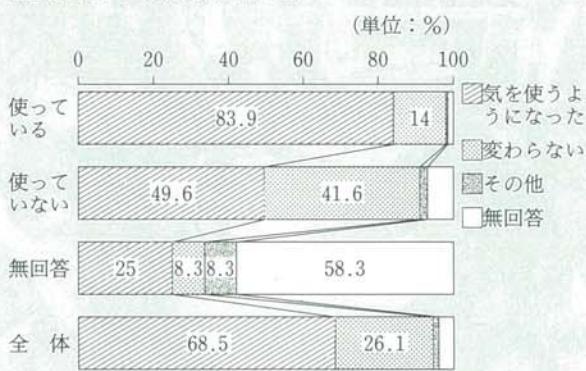
使用ひん度をみると月1～2回が最も多く523人(48.7%)、ついで週1～2回が348人(32.4%)で両方で81%を越えています。

使っていない理由をみてみると、使うのがめんどうだという人が290人(34.2%)、必要ない人が161人(19%)、壊れた人106人(12.5%)の順になっています。

アンケート調査と同時に、希望者へ電池の配布を行いましたが、実際に電池が切れて使用できない人の数は3.7%と少なかったようです。

今回のアンケート調査をとおして、塩分計をもったのを忘れていた。紛失したなどの人もいましたが、調査をきっかけに、また使い始めると言う人、年に1回くらいは、こういう調査をしてほしいという人もおり、全体として塩分に気をつけようになっていることが分かりました。

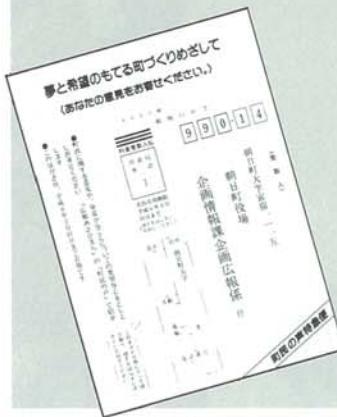
塩分に対する意識の変化



(保健課調べ)

あなたの声を町政に

「町民の声特急便」をスタート



広く町民のみなさんの声を町政に反映させるため、「町民の声 特急便」のはがきが今月の広報紙に折り込まれています。町づくりのアイデア、身近かな問題など何でも結構です。夢と希望の持てる町づくりに向けどしどしお寄せ下さい。

肝臓のチェックは
ミニドック検診で

肝臓病の主な原因は、ウイルス、飲酒、肥満、薬などによります。特に肝炎ウイルスは、慢性肝炎や肝硬変など原因の多くを占めています。現在確認されている肝炎ウイルスは、A、B、C、D、Eの5つの型があります。

町では昨年度より、肝臓病予防のためミニドック受診者に肝機能検診を加えるようになりました。今年度は、昨年実施していない地区のミニドック受診者を対象に実施します。

肝臓は沈黙の臓器といわれ、多くの場合症状が現れにくく、日頃の健康診断でチェックすることが最も大切です。

松白立石須部太郎三太郎二一田中高能八ツ沼西船渡長沼常盤草谷雪滝宇津野
程倉木部阿今野阿長岡長岡菅野阿長岡伊藤佐竹小関齊藤阿部佐竹鈴木喜美夫佐竹
阿部道雄
満雄喜助善藏啓治正昭久雄貢正一正博長壽司聖司正一國雄正一郎道雄
111 22 44 14 28 40 65 16 43 50 51 23 48 110 15 29 45
(新)

大船木 今平 佐藤喜市郎
 大谷一 鈴木喜兵衛
 大谷二 高木昭三
 大谷三 佐藤晃一
 大谷四 佐藤昭吉
 大谷五 白田昭吉
 大谷六 長岡寛治
 大谷七 佐藤喜久雄
 舟真 小野貞雄
 栗木沢 中澤
 川通 渡辺
 大暮山 川村
 川口 志藤
 小林昭次郎 白田
 大沼 沼
 大谷連合区 慎一
 (38) (48) (21) (84) (29) (42) (40) (14) (50) (71) (34) (41) (40) (38) (20) (29)
 (新)

大獅子が宮宿中を練り歩く(豊龍まつり)

村まつりスナップ

獅子と神輿が春をよぶ

今年の春は天候不順続きでしたが、ようやく草木の芽吹きが感じられる季節になりました。

四月下旬から五月上旬にかけては、町内のあちこちで春まつりが行われます。宮宿の豊龍神社まつり、常盤の十一面觀世音子どもまつり、それに杉山の神明神社まつりなどなど。農作業が本格的に忙しくなる前の一日、子供神輿や獅子が村中を練り歩き、春の訪れを告げました。



子どものすこやかな成長と家内安全を祈る(豊龍神社)



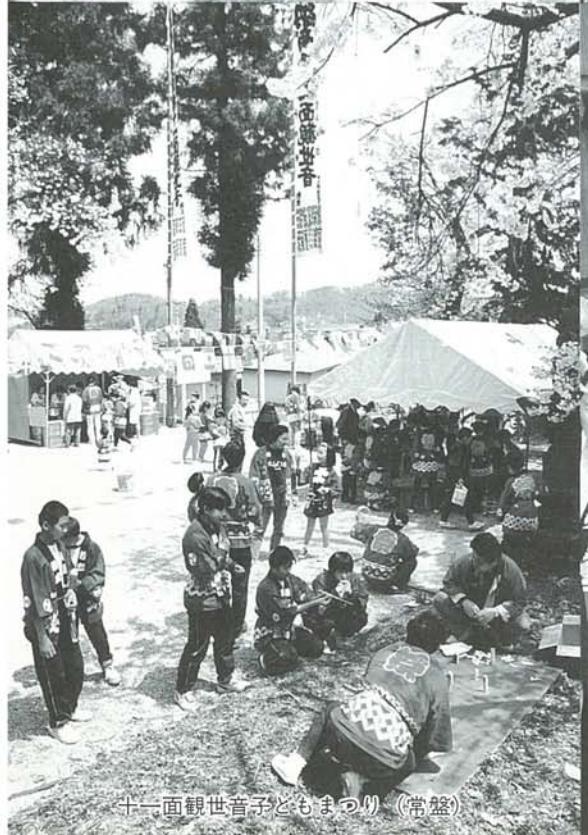
地区の有志による出店で遊ぶ子供たち(常盤)



「宮神輿」をかつぐ子供たちは元気いっぱい(豊龍まつり)



「宮神輿」をかつぐ子供たちは元気いっぱい(豊龍まつり)



■連絡先

役場企画情報課

企画広報係へ

☎67-2111 (内222)



公演を主催した実行委員会のメンバーたち

劇団希望舞台『天までとどけ』の公演が四月十二日、町民体育館で行われました。今回の公演は町連合青年団が中心となり、二十六名の実行委員会を組織し取り組みました。

実行委員長の鈴木和美連合青年団長は、「この公演の話が青年団に来たときは、今の青年団の組織力では無理だと思いました。しかし、町民の文化意識の向上、若者同士のふれあい、若者的人材発掘と活性化、地域とのふれあいを目的として取組むことを決めました」と今回の公演のねらいを語ってくれました。

公演当日は、少し肌寒い夜でしたが、体育館の特設会場には四百五十名を超す熱心な演劇ファンが、めったに見られない本場の劇に見入っていました。

鈴木実行委員長は「今回の実行委員のメンバーを核に、もつと若者の輪を広げ活力ある青年団活動につなげたい」と、今回の公演の成功に大きな自信をつけたようでした。

毎月第2火曜日は 「町長在庁の日」です

5月11日から毎月第2火曜日に町長が役場で、町民のみなさんの声を直接お聞きする、「町長在庁の日」をスタートさせました。

公務の会議や出張のため、何かと在庁する日の少ない町長ですが、毎月1回は町民とコミュニケーションを深めることをねらいとして始められた制度です。



身近かな意見や要望に耳をかたむける清野町長

青年たちが輝いた

「天までとどけ」の公演大成功

劇団希望舞台『天までとどけ』の公演が四月十二日、町民体育館で行われました。今回の公演は町連合青年団が中心となり、二十六名の実行委員会を組織し取り組みました。

実行委員長の鈴木和美連合青年団長は、「この公演の話が青年団に来たときは、今の青年団の組織力では無理だと思いました。しかし、町民の文化意識の向上、若者同士のふれあい、若者的人材発掘と活性化、地域とのふれあいを目的として取組むことを決めました」と今回の公演のねらいを語ってくれました。

公演当日は、少し肌寒い夜で



送橋／
清野 智美ちゃん
(送橋小3年)
雄一くん(5年)
寛希くん(5歳)
清野 孝一郎さん
(65歳)
おこうさん
(64歳)

わたしのおじいちゃん わたしのおばあちゃん

わたしのおじいちゃんは、とてもやさしいです。
この前おじいちゃんは、新しいじてん車を買ってくれました。わたしは、とても、とてもうれしかったです。
わたしのおばあちゃんは、朝(あさ)はん、昼(ひる)はん、夕(ゆふ)はんを作ってくれます。わたしも、いつも手伝いをしていきます。
わたしはおじいちゃん、おばあちゃんにながいきしてほしいです。

ともみ

堀ひろき

(53) FUJIO



町民の

このひろばはみなさん
のページです。話題やご
意見、作品など、ご自由
にお寄せ下さい。

ひとことトーク

リハビリを援助

～町立朝日病院の作業療法士～



清野敏秀さん
(四ノ沢・26歳)

以前寝たきりのまま退院する方を見ていて、何か自分にできることはないと考えていました。そこで、三年間専門学校で勉強し作業療法士という資格を取得してきました。

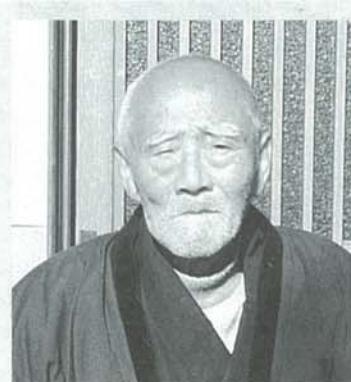
この作業療法士というのは、身体のリハビリ（機能回復訓練）を援助することを仕事とする専門の医療技師のことです。最近は多くの病院でリハビリ機能の充実を図っているようですが、朝日病院でも四月からわたしが着任して、入院患者や外来の方のリハビリを行っています。

この仕事では、患者さんが潜在的にもつてある回復能力をいかに発揮させるかということが一番のポイントになります。患者さんが焦らず、ゆっくり、少しずつ社会復帰できるよう支援したいと思っています。

以前寝たきりのまま退院する方を見ていて、何か自分にできることはないと考えていました。そこで、三年間専門学校で勉強し作業療法士という資格を取得してきました。

この作業療法士というのは、身体のリハビリ（機能回復訓練）を援助することを仕事とする専門の医療技師のことです。最近は多くの病院でリハビリ機能の充実を図っているようですが、朝日病院でも四月からわたしが着任して、入院患者や外来の方のリハビリを行っています。

この仕事では、患者さんが潜在的にもつてある回復能力をいかに発揮させるかということが一番のポイントになります。患者さんが焦らず、ゆっくり、少しずつ社会復帰できるよう支援したいと思っています。



大正十三年に父が植栽を試みたりんご園は、倭錦という品種が主であったが、彼は紅玉をふやし国光を植栽して、日光山麓のりんご園を拡大して行く。

彼は一度決心したら熱中して

日光山から西方を眺めると、山なみが広がって見え、中心の裾野に展開する景観である。初月山の姿が美しい。朝日連峰の裾野には、野なだらかな日光山麓には、野火の燃えるようにりんご栽培の氣運が広がっていました。

明治三十四年の十月十五日、粧坂の村山六之助長男として生れた仙之助は、幼いころからこの自然の中で、父について働きながら大きくなつた。

大正十三年に父が植栽を試みたりんご園は、倭錦という品種が主であったが、彼は紅玉をふやし国光を植栽して、日光山麓のりんご園を拡大して行く。

彼は一度決心したら熱中して

ふるさと 人国記 37

村山仙之助 —北部りんご栽培の先駆者—

いく性格であった（村山忠一郎氏談）とのことで、馬をはじめ肉牛を飼い、チャンピオン牛を育てる執着ぶりであった。この意欲をもつて粧坂果樹組合長となり、関東方面の市場や新潟市場の開拓に力を尽くしていく。

昭和五十四年十一月、朝日町誕生二十五周年にあたつての自治功労者として表彰された。その状文に「あなたは町農業の先駆者として、りんごを一早く取り入れ、組合長の要職にあつて後継者の育成、市場開拓等、生産販売両面にわたり尽力されました」と讃えられている。

平成元年一月十五日、農協団地センターでりんご植栽一〇一年記念式が行われ、りんご功劳者として表彰されたが、この四日前に彼は亡くなっていた。息子の栄が表彰状を受けとると、万場の拍手はひときわ続いた。

平成元年一月十一日、不屈の業績を残しその生涯を閉じた。享年八十九歳。

文・杉ひさし



600人を超す父兄たちも集まりました（町民体育館）

校体育館と町民体育館を会場に、第十五回朝日町長杯争奪剣道錬成大会が開催されました。当日は宮城、福島など東北各地から中学男子十三、女子六、小学男子十チームの県外組を含め、県内各地より百十二チーム千人を越える少年剣士たちが激戦を展開しました。

- ◆中学男子／優勝 遊佐中 第2位 朝日中 第3位 福島第四中 山形第一中
- ◆中学女子／優勝 富岡剣道団 第2位 朝日中 第3位 山形第四中 飛鳥中
- ◆小学男子／優勝 大谷剣道スポ少 第2位 仙台あらた道場 第3位 宮城佐沼スポ少 新潟共栄館道場
- ◆小学女子／優勝 天童北部剣道教室 第2位 神町スポ少 第3位 みずき剣道スポ少 河北剣道スポ少

千人の少年剣士集合 朝日町長杯争奪剣道錬成大会

町消防団春季演習

訓練の成果を披露

町消防団春季演習が四月二十五日、春の嵐が吹き抜ける悪天候の中、朝日中学校グラウンドで日頃の訓練の成果を披露しました。

本町駐車場を火点とする模擬火災訓練や分列行進を行う団員に、詰め掛けた町民の皆さんから盛んな声援が送られました。引き続き、役場前駐

車場では、長年活躍された団員のみなさんに各種の表彰が伝達されました。

●県知事表彰

- ▽金条章 第一分団第三部
- ▽特別功労章 菅井賢一（第一分団長）
- ▽功労章 高橋久仁彦（一一二）
- 佐竹長司（三一四）佐藤吉範（二一六）鈴木義昭（三一二）小林俊一

主婦E ブナが芽ぶき、山々がやさしい色になつて来ましたね。

工口博士 ブナの葉は「ブナの峰走り」と言われるほど芽ぶきが早く、朝と夕方で違うがわかるほど次々と芽ぶくそうじやよ。

E ブナは町の木に指定されていますが、町中ではありませんね。

博士 昔はあつたんじやが、人間の都



合で切られたり、他の木々が植林されたりしたんじや。

E 建築材料には向かないからですか。

博士 それも原因の一つじや。しかし、食物連鎖や物質循環などを考へると、すべての生き物にとって理想的な所なんじやよ。その上、落ち葉が厚く積み重なつた地面と土壤生物やブナの根が作るたくさんのすき間が水をたくわえ、その流れは決してたえない。まさしく緑のダムと言えるんじや。そのことによつて洪水や土砂崩れを防ぎ、さまざまの木や草が生え、土壤も肥え、たくさんの生き物が生きて行けるんじや。

E 自然の恩恵を大切にしたいですね。



豆力士がんばる

西五百川小 相撲大会

「ひがーし朝日岳、にーいし羽黒山」。桜が風に舞う少し肌寒い5月1日、西五百川小学校（遠藤清蔵校長・児童数155名）の相撲大会が行われました。

当日は、呼び出しに自分でつけたしこなを呼ばれると、白いまわしをつけた豆力士たちが次々土俵に登場。しこを踏んで、はっけよーいのこった。

1年生から始まる一本勝負や3人抜きでは、高学年になるにつれ次第に白熱。さじき席に詰め掛けた、お母さんやおばあちゃんたちからは、盛んな声援が送られていました。



公園整備をする区民のみなさん

能中地区は、最上川をはさみ宮宿の対岸にある戸数四十三戸の集落です。一本松公園は地区のシンボル的存在で、昭和元年故志藤武志元町長が、地元の青年に呼びかけて整備された公園です。頂上には樹齢百年を越す一本松があります。

公園の標高は、二八六・九メートルとそれほど高くありませんが、区民が毎年周辺の枝打ちや草刈りをして整備しているた

ふるさと
めぐり
(34)

成人おめでとう

平成5年度 町成人式

毎春恒例の町成人式が4月29日、町中央公民館で華やかに行われました。今年の対象者は、男性81人、女性71人の計152人。そのうち117人が出席。

式では渡辺収入役が「活力ある町づくりに、君たちが加わることは大変心強く思います。若々しい感性と情熱で、自己研鑽に励んでください」と式辞を述べました。これに応え大谷六の小野康仁さんが「若い情熱と行動力をもって、21世紀の担い手として頑張ります」と力強く誓いの言葉を述べ、続いて村山伸一さん(宇津野)が謝辞を述べました。

その後は、町連合青年団が用意してくれた祝い餅をごちそうになったり、祝賀会では中学時代の恩師や旧友たちと青春談義に花を咲かせました。



一本松公園

能 中

め、宮宿地区を眼下に見渡すことができます。また、里山としてはめずらしく町の花「ヒメサユリ」が咲く公園としても知られています。

平成元年の八天橋の開通にあわせ、公園まで道路が整備されました。それに伴い、沿道には区民による桜の木が植栽されるなど、公園整備が熱心に取り組まれてきました。今では、区民の自慢の公園になっています。

今年八月には東屋が建設される予定です。家族そろって、雄大なパノラマが楽しめる一本松公園へおいでください。

(渡辺政一 広報委員)



西村山支部長に就任した渡辺団長

5年度消防団体制

(三一三)遠藤清実(三一四)
▽功績章 岡崎吉博(一一五)阿部和寿(一一六)長岡純一(二一三)向秀哉(一一五)鈴木高敏(一一一)菅井誠吾(一一三)最上俊一郎(三一三)清野雅英(一一四)川口正幸(三一三)佐竹亮一(一一五)阿部賢一(二一六)小松伸一(三一三)遠藤二三夫(三一四)佐藤博司(三一一)堀敬美(三一五)鈴木進(一一一)

(二一三)遠藤清実(二一四)
▽精鍊章 佐藤博司(三一一)堀賢一(二一六)小松伸一(三一三)遠藤二三夫(三一四)伊藤吉正(大)岡崎信博(水本)
△永年勤続退団者 伊藤吉正(大)町(岡崎信博(水本))
△功績章 岡崎吉博(一一五)阿部和寿(一一六)長岡純一(二一三)向秀哉(一一五)鈴木高敏(一一一)菅井誠吾(一一三)最上俊一郎(三一三)清野雅英(一一四)川口正幸(三一三)佐竹亮一(一一五)阿部賢一(二一六)小松伸一(三一三)遠藤二三夫(三一四)佐藤博司(三一一)堀敬美(三一五)鈴木進(一一一)

第一分団長	菅井 賢一
第二分団長	今井 仁志
第三分団長	大井 寿一
副分団長	長岡 文雄
副分団長	高取 俊光
副分団長	白田 敏男
副分団長	菅井 高橋久仁彦
副分団長	菅井 清野
副分団長	阿部 雅英
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治
副分団長	阿部 純一
副分団長	和芳 和
副分団長	善司 昌春
副分団長	吉範 茂
副分団長	博司 義昭
副分団長	和彦 和寛
副分団長	白田 伸一郎
副分団長	堀 俊一郎
副分団長	阿部 義行
副分団長	五十嵐 義行
副分団長	渡辺 金二
副分団長	鈴木 秀一
副分団長	柴田 彰亮
副分団長	松尾 芳明
副分団長	阿部 為吉
副分団長	阿部 阿部
副分団長	佐藤 佐藤
副分団長	鈴木 佐藤
副分団長	長岡 長岡
副分団長	細谷 長岡
副分団長	高橋 久仁彦
副分団長	吉田 忠治



町民は国際人の

お手本

国際化と言われて久しくなりますが、朝日町民こそ国際人のお手本です。

日本人は農耕民族で、狩り土地を壊さず維持し、和を乱す者は正義といえども認めず協同とう和を重んじる民族です。欠点は、相手を傷つけまいとはつきり言わない事。平等心が強くて優れている人を妬む事。個性的な人を排除する事です。

歴史が見いくと、パリの
美術館はもともとフランソワ
一世の美術コレクションが始ま
りですが、ナポレオンがヨーロ
ッパ、エジプト遠征で奪った美
術品が多くを占めています。ま
た、コロンブスのアメリカ大陸
発見によつて、スペインはイン
カから宝物を根こそぎ奪い、船
の中で金を金貨にして本国へ運
びました。アメリカは、アフリ
カで奴隸狩りをして人間を売買
し、その労働力で国が栄えまし

こうなつでくると隣近所は民族の世界そのものである。アメリカ、ヨーロッパは認めたくないだろうけど、世界は日本化しているのです。つまり、国際化するということは世界が日本化することなのです。だから、日本の良さをしつかり持つていい朝日町民は、国際化する世界の人々の生き方のお手本であるという訳です。恥ずかしがらぎの自信を持つて下さい。

皆さんへの私からのメッセージです。都會には自然はないのです。するとどうなるのか？人間はいろんな役目をしなくてはなりません。鳥獸虫の役割、雨風の役割、日光、季節の役割、神の代役まで人間同志で行います。对照すべきものがないので、自分の本当の姿が見えなくなっているのです。自然と共にいるから自分がわかるのです。朝日町では人間は人間であり、その役割を果たしています。だから皆さんも美しい自然を大切にして、自分らしい夢を大きく育ててもらいたいのです。

自然と夢

た。西洋の盛栄はそういうやり方をつたのです。

広いと思っていた地球が、交通（地球のどこへでも数日で行ける）も情報（今やっている戦場のテレビ中継）もリアルタイム（即時処理）で世界中の人々のものとなりました。世界は狭くなつたのです。

戦争で我を通すにも兵器が強力になりすぎ（地球がふっとぶ）。力で世界を牛耳る事は不可能になりました。平等主義が世界の人々に浸透し、自分だけの幸せを求める事も不可能、世界中の監視の中、征服、支配といった身勝手な栄え方は終つたのです。どんなに力があるうと利己主義は世界が許さなくなりました。

こうなつてくると、隣近所に気を使いながら暮している農耕民族の世界そのものである。アメリカ、ヨーロッパは認めたくないだろうけど、世界は日本化しているのです。つまり、国際化するということは世界が日本化することなのです。だから、日本の良さをしつかり持つていい朝日町民は、国際化する世界の人々の生き方のお手本であるという訳です。恥ずかしがらずに自信を持つて下さい。

学校の前の標語『自然を愛し明日を育てる朝日の子』これは皆さんへの私からのメッセージです。都會には自然はないのです。するとどうなるのか？人間はいろんな役目をしなくてはなりません。鳥獣虫の役割、雨風の役割、日光、季節の役割、神の代役まで人間同志で行います。対照すべきものがないので、自分の本当の姿が見えなくなついるのです。自然と共にいるから自分がわかるのです。朝日町では人間は人間であり、その役割を果たしています。だから皆さんも美しい自然を大切にして、自分らしい夢を大きく育ててもらいたいのです。

どんな未熟なものでも、人に笑われても、無理と言われても、今の考え方や夢を大切にして下さい。なぜなら若い青春時代の心、思いつき、夢が国を動かし世の中を変えて来たからです。世の中を動かして来たのは若い人の力です。大人が今、正しいとしていることがこの先も正しいとは限らないのです。その後の科学を変えてしまった人、その後の歴史を変えてしまった人は、皆若い人達でした。一般相対性

理論を完成させたアインシュタイン、今みたいに落ち目でなかつたフランスのナポレオン、クラシックを変えたモーツアルト、

生んだ一例です。

これから

農業

今後の見通しや技術の先端と

いたものは即、自分の損得につながりますから誰も教えたがりません。それゆえ先端といえます。だから人に聞くというの

は大変難しいことです。技術を盗むという言葉があるほどです。

誰もが覚えてしまったら、もう

バネになつていています。ガソ

リンの様にエネルギーになつて

よくよく考えればそれが成長の

バネになつていています。ガソ

リンの様にエネルギーになつて

いると氣付く時が必ずあります。

世の中で一流になつた人は、劣

等感がその人を築き上げている

ことが多いのです。だからいつ

ぱいある欠点が、他人より劣つ

ているという気持ちがこれから

の自分を大きく成長させるのだ

と信じ、大いに欠点を楽しむこ

とです。これは先輩としての確

信です。

長所よりも欠点が、人生の中

で大きなものを射止めます。青

森のりんごは全国の五割も生産

し、なぜ日本をリードすること

になつたのか。「ここは、りんごには苛酷な環境で、全力で立ち向かわざるを得なかつた結果が

そうなつた」と青森の人は言つています。つまり欠点が成功を

朝日町を 誇りにして

朝日町の誇りは日本一
おいしいりんごがとれること
(和合平のりんご園)



寒河江・西村山チーム 五位入賞

県縦断駅伝大会

新緑の出羽路に健脚を競う第

三十九回県縦断駅伝大会が、四月二十七日から三日間にわたつて二十七区間二九八・九キロに

熱戦を繰り広げました。

上位進出を狙う寒河江・西村

山チーム(今野幸昭監督・西町)

は、鈴木幸喜(高田)選手の区間優勝などの活躍もあり、昨年の七位から二つアップの五位入

賞を果たしました。朝日町から

出場した選手は、次のみなさん

です。海野宏行(送橋)、菅井繁

美(天隅)、早坂健一(大谷

五)、志藤晃一(栗木沢)、鈴木

幸喜(高田)、鈴木伸治(平)、

海野裕喜(能中)



熱い思いをタスキにたくして(宮宿中継所)

※これは、奈良崎さんが朝日中で生徒たちに講演した内容をまとめたものです。

(教育広報委員 奈良崎美雄)



●前田沢／渡辺 一義さん 恵美さん

やややかさん
新婚

勤め先で知り合った二人。お互いの第一印象について、一義さんは「25~26歳かなあー」。恵美さんは「27~28歳ぐらいかな」。付き合い始めてお互いの年を知ってびっくり。でも、一回りの年齢差をもろともしないで、3年間の交際期間を経て5月2日にめでたくゴールイン。

「まわりの皆さんのお援で、一緒になれました。今の気持を忘れずに、幸せな家庭を築きたい」と話す一義さん。まさに五月晴れのお二人です。

お幸せに。

人口と世帯数

●平成5年4月30日現在

人口

男	10,277(減18)
女	5,113(減9)
世帯数	5,164(減9)
() 内前月比 2,538(増3)	

() 内前月比

デイーは村山地方の流れらしいという話であった。▼なるほど、朝日町は村山と置賜のちょうど接点ともいえる地理にある。獅子舞いのほかにも、両地方の風俗や習慣が混り合った独特なものがいるかも知れない。▼今月号にハガキを折り込みました。みなさんが日頃疑問に感じていること、分らないことなど何でも結構です。どしどしお寄せ下さい。お待ちしています。(K)

こせきのまど

■4月1日~30日届出



栗木 沢	松 新	水 太郎	古 区名
遠藤 秀昭	原 宿	大 谷	太郎一
♥ 大 江 町	松 尾	岡 崎	横 標
菊地 輝 美	熊 谷	長 岡	齊 藤
(婚姻届)			
泰 や 千ち	葉 は 春はる	佑 まこと	詩 うた
葉 は 慎 じ	葉 は 慎 じ	治 はる	織 おり
清 太 郎	正 一 利	裕 ひろ	名 な
克 錦 正 稔	明 一 利	穏 ひら	父 ちち



かいやかに

(出生届)



やわらかに

(死亡届)

本 立 松 下 荘	助 助	区名
町 木 原 木 沢	ノ 卷	立
大 船 木 大 船	榮 荘	松
原 木 木 木 沢	下 荘	大
() 内前月比		
死亡者氏名	死亡者氏名	死亡者氏名
海野 武	大津四郎吉	斎藤 トシ
大滝 武	佐藤 正弘	佐藤 正弘
阿部 長岡 長次郎	齋藤 長岡 長次郎	武雄
雅敏 雅敏	正弘	さよ子
阿部 阿部 むめ	清	松 雄
启次郎 铁 開次郎	な ち	さよ子
之 雅 雅	子	つ よ

前 長岡 渡邊	秀 昭	送 橋
一 義	♥ 白 田	宿
安 藤 弘 美		
() 内前月比		
夏 中 夏	草 泽	西 町
阿 部 五十嵐	かつかゑ	鈴 木 布施
雅 敏 吉 三	あや	謙 藏 保
正 雄 美		正 子 次 男



情報箱

●財朝日町育英会へ寄付
・大暮山出身で、仙台市在住の
阿部喜代俊さんより十万円いた
だきました。ありがとうございました。
お手ごさまでした。



春 夏 秋 冬

編集後記

▼町内でもめずらしい獅子舞いが杉山に伝承されているというので、さっそく取材へ。▼二十代の若者たちが伝統芸能を守り続けていることにも感心したが、獅子舞いそのものにも驚いた。たまたま一緒にになった、獅子舞い研究家の荒川一美さん（白鷹町）によると、杉山の獅子頭は耳がピンと立っているのが特徴で、置賜地方の流れをくむものだという。しかし、囃子のメロ